

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名 はすいけ 蓮池	としゆき 理之	学校名	埼玉 都・道・府・県 新座市 立 第四中 学校
担当教科等	社会科	対象学年 (人数)	2 学年 (1 6 9 名)
実践年月日もしくは期間 (時数)		2019 年 11 月 ~ 12 月 (6 時間)	

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：社会科（地理的分野）、総合的な学習の時間（国際理解）	
2. 単元(活動)名：JICAに学ぶ国際協力 「途上国の課題と世界で働く人たち」	
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「地球の反対側と私たちの未来 - 「国際協力」と「働く」とは-」単元目標： 単元目標：パラグアイと日本の共通点と相違点を理解し、開発途上国が抱える課題、「国際協力」と「働く」とは何かを考える 関連する学習指導要領上の目標： ①社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、情報を効果的に調べまとめる技能を身につける。(社会科) ②個々の進路実現に必要なことを総合的・多面的に捉えるとともに、協働的・探求的な学習を通して、進んで将来の自己実現について考えようとする態度を育てる。(総合的な学習の時間)	
4. 単元の評価規準	①知識及び技能 ②思考力、判断力、表現力等 ③学びに向かう力、人間性等
	①パラグアイの写真や現地で働く人々のインタビュー動画から途上国の人々の生活や環境の多様性を理解している。 ②課題探求の中で、国際協力や働くことについて自分なりの概念を構築している。
	①パラグアイの写真から集めた情報を整理・分析したりして、課題やその要因をまとめる力を身につけている。 ②他者の考えと比較したり、参考にしたりしながら、自分の考えを表現している。
①他の生徒との協働的な学習などを通して、粘り強く課題を解決しようとしている。 ②職場体験学習での経験や実際にパラグアイで働く人々のインタビュー動画から将来の自己実現について考えようとしている。	
5. 単元設定の理由・単元の意義（児童/生徒観、教材観、指導観）	【単元設定の理由】 社会科では少子高齢化やエネルギー問題、過疎過密など世界や日本のさまざまな問題を取り上げてきた。今後、社会の変化に伴い、現代社会に生きるすべての人が諸課題を自分のこととして考え、よりよい解決に向けて行動することが望まれている。また、本校の総合的な学習の時間の進路キャリア教育では、職場体験学習と進路学習を通して、進んで将来の自己実現について考えようとする態度の育成を目指している。そこで、パラグアイの写真や実態、青年海外協力隊の方々の実体験に基づいたインタビューは課題を追究したり解決したりする態度や、将来の自己実現について考えようとする態度を育むために最適な教材だと考え、本単元を設定した。 【単元の意義】 新学習指導要領が示す、「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには一斉に教えることを中心とした授業だけでなく、生徒が主体的に考え、課題追究したり、解決したりする活動が必要だと考える。そこで、本単元ではグループ解決型学習と知識構成型ジグ

<p>ソー法の両方を取り入れた学習に取り組む。個人で資料を読み取る、グループで話合う、個人で振り返る一連の協働的活動を通して、学びが深まる。また、写真や映像をもとにした探求的な学習を通して、持続可能な社会の実現、SDGS の視点から主体的に課題を見つけ、解決しようとする姿勢を育めると考えている。</p> <p>【児童／生徒観】 本校では共に高め合う生徒を育成するために全教科共通で学習グループ（3～4人）を作り、多様な考え方を理解し、自己表現する場面を多く設定している。少人数で話し合う場面を多く設定することで、生徒間の学び合いが定着することを学校全体で目指している。その成果もあり、本校の2学年は生徒間の話し合いの基礎的な態度は培われており、自己表現ができる生徒が増えている。一方で、他の生徒との協働的な学習などを通して、課題を発見し、解決策を見いだそうとする態度の育成までには至っていない。</p> <p>【指導観】 単元全体を通して、「教えすぎない、伝えすぎない」ことを意識して、生徒の発想や発言を大切にしていく。グループ解決型学習と知識構成型ジグソー法を利用したアクティブラーニングを行うことで、クラス内だけでなく、学年全員で学び合える授業を展開していく。</p>				
6. 単元計画（全6時間）				
時	小单元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	世界を知る	・世界やパラグアイについて知る	・パワーポイントで世界やパラグアイについてクイズ形式（計11問程度）で学ぶ ・クイズの答えをワークシートに記入 ・今後の授業の流れについて説明する	・パワーポイント ・実物資料
2	フォトランゲージフォトランゲージ	・パラグアイの写真から日本の共通点と相違点を考える ・途上国が抱える課題を考える	・世界にはどのような課題があるかを考える ・クラスを5つの班（6～7人）に分け、それぞれの班がパラグアイで撮影した写真の中から【インフラ・医療/福祉・食・教育・貧富の差】のテーマごとにまとめる	・パラグアイで撮影した写真
3	インタビュー動画視聴	・「国際協力」と「働く」とは何かを考える	・青年海外協力隊の方のインタビューを見て、質問項目について個人、班で考えをまとめる。 【質問項目】①仕事を始めたきっかけ②やりがい③仕事で大変なこと④パラグアイの国として大変なこと⑤夢⑥日本の子どもたちに一言	・インタビュー動画
4	発表準備	・学んだことを分かりやすくまとめる	・次の時間に向けた掲示物準備と発表の練習をする。班でこれまでの授業の内容を元に「国際協力」と「働く」は何かを考える。 ・次の①～⑥を班で分担する。	
<p>【フォトランゲージ】①日本との共通点や相違点②問題点③関連するSDGs トップ3 【インタビュー動画】④インタビューを聞いて考えたこと⑤「国際協力」とは何か⑥「働く」と「仕事のやりがい」とは何か【全員】学習のふりかえり</p>				
5	クラスで発表（クラス内で学び合い）	・学んだことを分かりやすく伝える ・他の班の発表を聞いて、学びを共有す	・各班が前時間までにまとめた内容を進行表に沿って、発表をする ・発表内容確認（5分）→発表40分（発表7分+評価1分）×5班→まとめ（5分）	・班で作成した掲示物 ・パワーポイント ・評価シート

		る		ト
6	クラスを超えて発表(学年で学び合い)	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことを分かりやすく伝える 他のクラスの発表を聞いて、学びを共有する 	<ul style="list-style-type: none"> 5クラスの違うテーマごとに集まり、各教室で発表する 説明&移動(5分)→発表40分(発表7分+評価1分)×5班→ここまでの学びの総括(5分)「授業前と後で、自分が何に気づき、何を感じ、どんな考えを持つようになったか」 「授業前と後で、自分が何に気づき、何を感じ、どんな考えを持つようになったか」 	<ul style="list-style-type: none"> 班で作成した掲示物 パワーポイント 評価シート

7. 本時の展開(6時間目)			
本時のねらい: ①学んだことを分かりやすく伝える ②他のクラスの発表を聞いて、学びを共有する			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 発表形態の説明と移動 調べた内容について、クラスを移動して他クラスの生徒に発表する 	<ul style="list-style-type: none"> クラスごとに違う隊員を調べたことを再度説明し、発表への責任感を促す 	
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> 各班8分(発表7分+評価1分)×5班 次の①～⑥を6～7人で分担し、各担当が発表 クラスごとに違うインタビュー動画を見ているので、自分たちが見た隊員について説明を加える 	<ul style="list-style-type: none"> 時間の意識をつけさせる 発表を聞く態度を指導する 	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイント 班で作成した掲示物 発表原稿 評価用紙
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【フォトランゲージ】①日本との共通点や相違点②問題点③関連するSDGs トップ3 【インタビュー動画】④隊員の説明+インタビューを聞いて考えたこと⑤「国際協力」とは何か⑥「働く」と「仕事のやりがい」とは何か【全員】学習のふりかえり</p> </div>			
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ここまでの学びの総括 「授業前と後で、自分が何に気づき、何を感じ、どんな考えを持つようになったか」 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りの中で授業の前と後の変化に気付かせる 	振り返り用紙

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

- ①途上国の人々の生活や環境の多様性を理解し、国際協力や働くことについて自分なりの概念を構築している。【知識及び技能】
- ②集めた情報を整理・分析したりして、分かりやすくまとめている【思考力、判断力、表現力等】
- ③課題を解決していく中で将来の自己実現について考えようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

9. 学習方法及び外部との連携

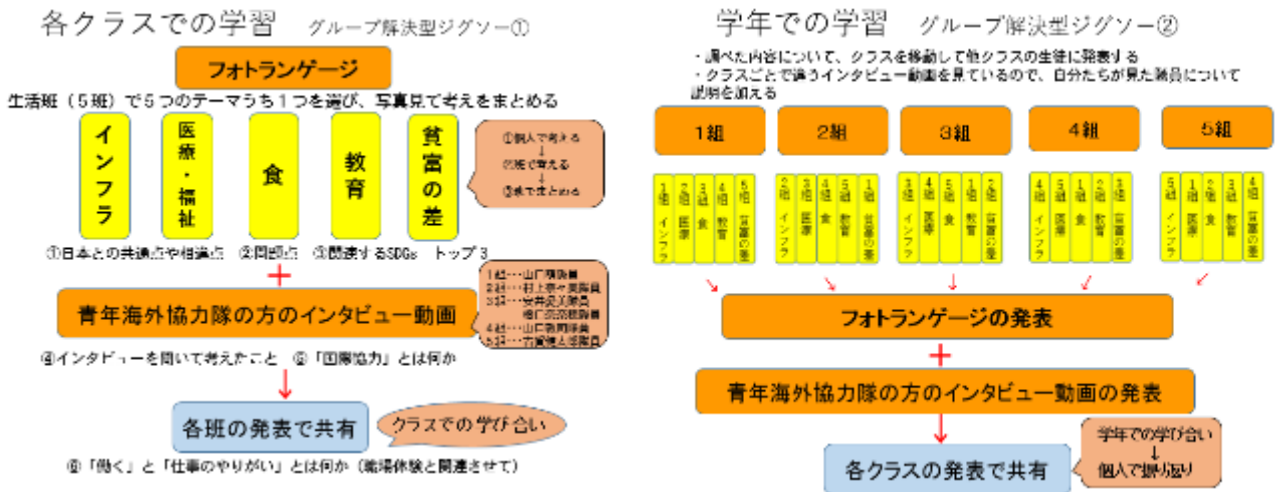
【学習方法】

- ①グループ解決型学習…個人で考える→班(6～7人)で共有→個人でふりかえり→班で発表
- ②知識構成型ジグソー法…各クラスの5つの班では、違うテーマ(インフラ・医療/福祉・食・教育・

貧富の差)を担当する。学年5クラスでは、違う動画(山口萌隊員・村上奈々美隊員・安井愛美隊員/橋口奈奈穂隊員・山口敦司隊員・古賀健太郎隊員)を見る。

③グループ解決型ジグソー…5班×5クラスの計25班が、班で作成した掲示物やパワーポイントを使い、クラス内とクラスを超えて学年内で互いに調べたことや考えたことを学び合う。

【授業構造図】



10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

学校内では3学年の総合的な学習の時間で「国際理解」をテーマにした調べ学習と JICA 出前講座を実施している。講師の方々の話を聞くだけでなく、児童労働、フェアトレード、SDGs をテーマにした調べ学習と発表など事前学習にも力を入れている。

学校外では、地域教材資料「新座」における地理的分野の一部を担当し、SDGs をテーマにして地域について考えさせる「持続可能な社会の実現—新座市の未来を考えよう—」のページを執筆した。また、埼玉県で行われた令和元年度人権教育集会では「社会科と人権教育」をテーマに国際理解教育の授業実践を発表した。

【自己評価】

11. 苦勞した点	最も苦勞したことは教材の選定である。パラグアイでの2週間で得た、写真、動画、協力隊や現地の方々の話、見たこと、感じたこと、どれも貴重な教材であり、それらを限られた時間の中でどのように生徒たちに伝えるかを悩んだ。当初扱う予定だった教材を削りながら、「国際協力」「働く」というポイントからテーマに合った教材を選定した。
12. 改善点	今回の授業は学年5クラス、1クラス5班だったため、クラスや学年でのジグソー学習や学び合いが可能になった。今後、他の学校で実施する場合はクラス数や班数に合わせて、調べ学習のテーマやインタビュー動画の編成を変える必要がある。また、グループ学習が中心であったため、発表後に生徒個人の変容を共有する機会を設けると理解がより深まると感じた。
13. 成果が出た点	①学年全体を巻き込み、クラスを超えて学年全体で学び合いを行えたこと。特に教

	<p>員も巻き込んで、授業を行えたことがよかった。</p> <p>②職場体験学習と繋げ、国際理解だけでなくキャリア教育の視点からも授業を行えたこと。生徒は職場での実体験を踏まえ、「国際協力」や「働く」ことについて深く考えられていた。</p> <p>③全てを教えるのではなく、フォトランゲージやジグソー学習を用いたことで、さまざまな考えや意見が生徒から出たこと。他者の考えと比較したり、参考にしたりしながら、自分の考えを表現している生徒が多くいた。</p>
<p>14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p>①「なぜ日本は他の国のことを援助しているのかな、関係ないのに」と思っていたけれど、今回の話を聞いて、日本が大変だった頃に助けてもらっていたことや、日本が輸入などしているから、その恩返しとして援助を行なっているという大切なことに気付きました。私もいつか外国に行って、誰か1人でもいいから、大切な命を救いたいと思いました。(第1回ふりかえりより)</p> <p>②インフラについて考えたときに、道路が整備されないから雨が降ったら学校に行けない。そうすると教育が進まない。道を整備するとき発展しすぎると森の豊かさがなくなってしまう。1つのことでも、たくさん関連しているものがあり、複数のことを考え直していかなければならない。(第2回ふりかえりより)</p> <p>③今は学校のことしか考えてなかったけど、動画を見て、他の国に目を向けることも大切ということが分かりました。パラグアイの教育をもっと知りたいと思いました。私が職場体験したところ海外の方も来ていたので、世界は繋がっていると思いました。(第3回ふりかえりより)</p> <p>④私たちのこの生活はすごく贅沢で、学習をして備わっているこの知識もパラグアイの人々からしたら、当たり前のものではないと思った。私たちができることなんて、ないと思っていたけれど、今学校で学習している授業を全力で受け、精一杯考えたとき、その考える力が将来世界の役に立てるかもしれないと思った。(第6回ふりかえりより)</p>
<p>15. 授業者による自由記述</p>	<p>今回の研修に参加するに当たり、志望動機には「生徒に学ぶ意味を伝えるため、私自身が学び続け、視野の広い教師になる」、「国際理解教育を推進できる教師としてスキルアップする」と書いた。事前研修や2週間を共にした先生方やスタッフの方々から他教科からの視点、授業方法など多くのことを学ぶことができた。特に授業実践では研修や現地で得た多くの資料をどう授業に落とし込むかをすごく悩んだが、研修の仲間からも多くの助言をもらい、なんとかかたちにすることができた。そして、研修や授業実践を通して、国際協力や働くこと、自分や地球の未来について考えられる、「国際的視座に立った生徒を育成したい」と改めて思うことができた。</p> <p>今回の研修ではさまざまな校種、教科の素晴らしい先生方と仲を深め、議論を交わした。このつながりは、自分にとって今後もかけがえのない財産になるだろう。この研修で学んだことを生かして、今後も学校内外問わず、さまざまなチャレンジをしていきたい。このような貴重な研修の機会を設けてくださり、企画運営してくださったJICAスタッフの皆様に感謝申し上げたい。</p>

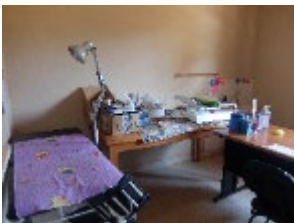
参考資料：

【フォトランゲージ写真資料】

①インフラ



②医療・福祉



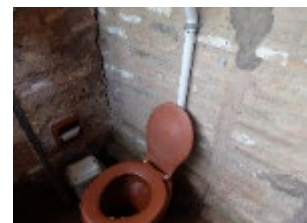
③食



④教育



⑤貧富の差



【インタビュー動画】

山口萌隊員・村上奈々美隊員・安井愛美隊員/橋口奈奈穂隊員・山口敦司隊員・古賀健太郎隊員

【生徒作成の掲示物】



